

武蔵野市第四期基本構想・長期計画策定委員会（第6回） 会議要録

日 時：平成 15 年 12 月 24 日（水） 午後 1 時 30 分～3 時 40 分

場 所：武蔵野市役所 802 会議室

出席者：東原委員長・小木副委員長・鶴川委員・廣瀬委員

増山委員・村田委員・古田土委員・永並委員

企画政策室長・財務部長・企画調整課長・財政課長ほか

1 開 会

2 議 事

（1）財政計画について

財政計画策定案について事務局からの説明ののち、次の趣旨の討議がありました。

【委員長】財政計画については3つの検討事項がある。この考え方でよいか。この数字で了解できるか。最終的にどう表現するかということだ。

【委員】人口はこの10年位は減らないようだが、そのあとで大幅に減る予想がでていいる。労働人口減少、高齢者人口増加の影響について、10年予想ともう少し長期の予想を作ったほうがよい。シナリオ分析として、これをベースに好景気で人口構成がよくなるものとその逆など3パターン程度想定すべきだ。税収が減っていった場合、市が稼ぐ方法はないのか。インフラ資産、固有財産について長期的なアセットマネジメントプランが必要と思う。そのとき維持管理計画と財政計画がリンクできるかどうか検証すべきだ。そのときの基金や、水道や土地開発公社も含めた借入金の水準はどの程度となるのか。基金の水準がこの10年20年でどの程度必要か。介護保険や下水道の繰り出し、外郭団体への補助金はどうか。アウトソーシングについて民間のコストなどと比較し、可能なものを考えていくべきだ。

【委員長】財政計画で今回大切なことは持続可能性だ。財政計画は裏付けのあるものだと市民に言っていきたい。

【委員長】扶助費が計画に収まったのは朗報だが、その理由は。

【事務局】介護保険など制度の改革によるものだ。

【委員】計画では減、実績が伸びとなっているのが対照的だが、差がでていいる理由は。

【事務局】前回は平成12年度に作成している。経済的には暗かったが、市税はそれほどマイナスにならなかった。今回の作成では、はっきり個人市民税の

マイナスという数字が出ているほか、国庫負担金や東京都の補助金が削減される方向が出ており、かなり状況が異なると理解して欲しい。

(2) 討議要綱について

討議要綱について、次の趣旨の討議がありました。

【委員】委員より提出された意見について、基本的な考え方を伺いたい。

【委員】全体を通す考え方としては、市が住民へ対してきちんと約束をし、それを達成したかどうか評価できる仕組みをつくるということだ。大きなテーマとしては財政運営と経営改革がある。数値目標を作って約束することが重要だ。市はたくさんの計画書・報告書を出しているが、住民から見てわかるように一元化し、住民が政策決定に参加できるようにする。バランスシートでは、今までは歳入歳出しかわからなかったことが、資産がどれだけあり負債がどれだけあるかが出せるようになった。これをシステム化するべきだ。予算改革は業績評価ができるような予算事業項目の設定や戦略計画とのリンクがある。武蔵野市は非常に財政力もあり、意思決定も早く、責任感も強い。それを他自治体と比較できるようにしたい。

【委員】情報に関しては、隠れた情報を出せ出せという話ばかりだったことに對し、情報一元化などはもう一回使える情報とするということに進んだ考えであり必要なことだと思う。それには市民参加ということも含まれていると思う。

【委員】よい提案であり、スマートに盛り込めればよいものになると思う。現場の方がこの提案を実際の運営の中に取り組んでいくのは大変かと思う。

【事務局】会計制度改革ということとなると予算制度は地方自治法施行令で決められているものであり、例えば複式簿記を導入するのであれば、現行の予算制度を行いつつ二重に導入することとなる。ただし、他の部分では市の考え方はこのような流れに沿っていると考えている。

【委員長】制度化までは入れていけないかとも思うが、討議要綱は問題提起だ。

【委員】財政責任条例をつくるようになった場合、目標を守れない場合の市長のペナルティはあるのか。

【委員】条例自体は宣言程度、努力目標である。

【委員長】今の日本では評価が大キーワードと思う。ただし数値化ができないものがたくさんあることは我々も十分認識している。

【事務局】1月1日号の市報で新長期計画策定へ向けての主要な課題（次世代の子ども育成施策、高齢者対策、緑と地球環境、武蔵境のまちづくり、吉祥寺新時代、防災と安全）が掲載されるので提出する。

【委員長】市報の6課題はすべて問題なく挙げてよいテーマだ。

【委員】抜けているものとして、役所のあり方、組織の問題、公共サービスの

あり方といった行政の問題がある。

【委員長】分権時代、市政の生産性、地域資源も挙げたい。

【委員】地域の市民の力といったことも重要だ。

【委員長】パートナーシップをどう明らかにしていくかが重要だ。地域資源は高齢者だけでなく子どもにもリンクするだろう。

【委員】人口問題は地域資源の中で捉えるか。

【委員長】これは政策でなく事実認識だ。

【委員】三位一体の改革もそうだ。姿勢としては能動的な市民参加を訴えていてよいのではないか。

【委員長】この市民というのはサービスの主体となる市民だが、能動的な市民参加がないと武蔵野市は立ち行かないことは、基本的な考え方として書かざるを得ない。

【委員】情報化という問題もある。

【委員長】情報化は生産性にも安全にも、その他環境や子どもにも広く寄与する。防災などは情報サービスだ。

【委員】「身体・言語・自然」というキーワードが子ども関連であるが、老人や市民全体についてもそういうテーマがあってもよい。一方で情報という問題に集約することもできる。

【委員長】情報は拡大化すると何にでもなってしまうのでITに限定したい。自然は環境だけでなく心の中にもあるので、それを出していただきたい。

【委員】人と関わるものは、自然と人為と両方必要だ。

【委員長】セカンドスクール、国際交流もここに入ってくる。

【委員】虐待については、虐待を受けた親が子どもを虐待するなどということもあり、意識でコントロールできない部分でもある。そこまで市が関与できないということかもしれないが、議論する以上はそこまで考えるべきではないか。

【委員長】キーワードとして「自然」が出てくる。また、「倫理」の問題として、主権と倫理、高齢者の尊厳、負担の公平といった問題がある。今まで倫理的なことは避けてきたがきちんと議論したい。

【委員】市長も言っているように家族の中に行政が入るのは難しいが、何とかしなければならない。

【委員長】猛烈なエネルギーとトップの肝が必要だ。ストリートスポーツ広場もそうだが、責任問題が出てきそうなことは一般的には市ではやらない。

【委員】教育はその場の成果も大切だが、2世代くらい長期的に考えるべきだ。

【委員長】討議要綱の論点なので志を入れたい。具体的な政策にはつながらなくてよい。

【委員】今まで出ている問題は、過去50年くらい積み重ねた結果が出てきて

いるのではないか。

【委員長】食と家族の問題について言えば、例えば 10 年前にこのようなことを言ったら、何と言われるかと思うが、社会の変化が非常に大きい。私自身が行政と倫理との関連に思い至ったのは、市長を長く観察してきたからだ。他の自治体を見ていたらこういう発想には至らなかった。

【委員】経済・経営は倫理ではなく、もうけや効率性が中心と思っていた。経済的な企業センスを重視すると、市場で勝つものがよい、競争は自由でなければいけない、競争は放っておいた方がよい、公的な押し付けはよくないということになると思うが、どうお考えか伺いたい。

【委員】企業経営でもリーダーシップ論があり、リーダーに必要ないろいろな要素があるが、経済的理由だけでは企業は継続できない。

【委員】アメリカは市場メカニズムのみという気がしていたが、一方で欧米では社会資本の投資が市場の原理としても重要とも言っている。人々の支持するところが資本拡張に必要なだから倫理性も必要なのか。儲けと関係なく、会社でも倫理性を要求されつつあるということなのか。

【委員】コンセプトではないか。

【委員】選挙では倫理性のない人は落ちる感じがするが、市場でもそうということか。

【委員長】倫理の問題や地域資源の問題も議論しなければならない。

【委員】食は子どもや安全の分野など切り口によっていろいろ重なってくる。

【委員長】市民は能動的なサービスの提供者という面と受け手という面がある。パートナーシップの問題はいろいろなところから出てくると思うが、能動的な市民からのアプローチはよいことだ。

【委員】個人情報保護について、いま問題なのは、民間企業が有する情報も含めた保護のことだ。

【委員長】安全の中で情報も考える。

【委員長】この計画はコンサルタント任せのようなやり方ではない。責任は我々にあり、我々が納得しなければならない。実績と評価について言えば、市はもっと頑張ったのではないかと思う。ちゃんとやっていることは示した方がよい。それが市民へ対するサービスでもある。